

WEEKLY SIGNAL

平成27年9月11日(金) 1291号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/14(月)	9/15(火)	9/16(水)	9/17(木)	9/18(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 900	+ 1,000	ト ン	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 8,000	△ 4,000	+ 1,000	ト ン	+ 1,000
資金需給	不 7,100	不 3,000	余 1,000	不 2,000	不 1,000
主な要因	源泉税揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行・償還(2年)			
オペ期日	CP等買入 △ 300			貸出増加支援 △ 100	
オペスタート		短国買入 + 15,000 国債買入 + 8,700 社債等買入 + 1,000			
(日本)	日銀金融政策決定会合(1日目) 日銀営業毎旬報告 (9月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	日銀金融政策決定会合 (2日目) 黒田日銀総裁記者会見	金融経済月報(9月、日銀) 業態別の日銀当座預金残高 (8月)	黒田日銀総裁挨拶 (全国証券大会) 対外対内証券売買 貿易収支(8月、財務省)	日銀金融政策決定会合 議事録(8月6、7日分) 百貨店売上高 (全国・東京地区8月)
(海外)	欧 ユーロ圏鉱工業生産	米 小売売上高(8月) 米 NY連銀製造業景況指数 (9月) 米 鉱工業生産指数(8月) 独 ZEW景況感指数(9月)	米 FOMC(1日目) 米 MBA住宅ローン申請指数 米 CPI(8月) 米 NAHB住宅市場指数(9月) 欧 ユーロ圏CPI(8月改定値)	米 FOMC(2日目)、 経済予測の発表 米 イェンFRB議長記者会見 米 経常収支(4-6月) 米 住宅着工件数(8月) 米 新規失業保険申請件数 欧 ECB経済報告	米 景気先行指標総合指数 (8月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初232兆円台から始まり、9日には短国・国債買入により236兆円台まで増加した後、10日は発行要因から233兆円台まで減少したが、234兆円台で越えた。無担保コールON物は週を通して0.075%近辺で取引され、同金利の加重平均は0.075~0.076%で推移した。ターム物は月内エンドとなる1~2W物を中心に0.11%台で取引された。9月末越え取引は調達ニーズが弱く、出合いは限定的であった。9日の日経平均株価終値は、前日より1,343円43銭高い1万8,770円51銭。1994年1月31日以来、約21年7カ月ぶりの上げ幅で、過去6番目の大きさであった。11日、新発10年物国債利回りは一時0.345%(前日比▲0.005%)と、5月1日以来約4カ月ぶりの低水準となった。来週の材料として国内は日銀金融政策決定会合(14,15日)、海外はFOMC(16,17日)等が挙げられ、その結果が注目される。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	△0.010 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約6,100億円で、期落ち額約9,900億円(金融機関・ABCP除く)から大幅に減少した。期末を控え、商社や機械などで大型案件の継続発行が見送られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台後半~0.100%近辺で推移した。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約9,900億円程度となっている。

<TDB>

10日に国庫短期証券3M第557回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0032%(前回債△0.0032%)と前回債から利回りに変化はなかった。セカンダリーは3Mで△0.003%近辺の出合い。6Mは△0.007%近辺の地合い、1Yは目立った出合いはなかった。来週16日に1Y、17日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末に引き続き、0.08%近辺の出合から始まり、短国6Mの発行日である10日受渡しでは、S/N、T/Nともに0.085%近辺までレートは上昇した。積み最終日となる15日受渡しでは、振替停止期間の要因に加え短国・国債買入オペが2兆4000億円オファーされたこともあり、S/Nで0.03%~0.01%まで低下し越えた。SCは10年336・337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。また、一部銘柄では9月末越えとなる3W~1M程度の期間でネガティブレートでの取引も目立ち始めた。10年債は305・319・325・327・338・339回債、5年債は124回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。